

平成 23 年 6 月 17 日

6 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木は、ここに来て市況の急落と虫害の発生で生産見合わせの動き。入荷は平年を上回る状況が続く。杭木の材料として小径木の需要は好調。構造材を中心とした製品の荷動きが止まっており、材の痛む時期からも製材工場の原木手当て意欲は極端に低下。この原因は震災復興需要の遅れと思われ、回復時期は見通せない状況。価格は全材種とも値下がりが続く。特に、構造材の値下がり幅が大きく、ヒノキ柱材は震災以降 7,000 円/m³下落。中目材は弱保合で、良材少なく梅雨に入り更なる値下がりが懸念。群馬は、原木在庫が少な目の中で、カラマツ原木は不足。製材工場の操業はやや低調。製品の受注、販売もやや低調で、製品価格も弱い。スギ原木の市場へ大量入荷の反面、製品需要は落込みが厳しく、安値にもかかわらず買い意欲は薄く、元落ちも増加。カラマツは需要堅調ながら、原木供給で国有林の出材が 7 月からなので不足気味。

2. 米材

4 月の米国新設住宅着工戸数は、前月比 10.6%減の年率 52.3 万戸。米国丸太は中国の旺盛な買いが一服し、価格に天井感が出始めて保合。カナダ丸太はセカンドグロスが保合で、オールドは品薄から強含み。5 月の産地港頭在庫は約 8,200 万スクリブナー(約 39 万 m³)。また、ウェアハウザー社の 6 月積み米マツ IS ソートは先月同値で据え置き。米材丸太の入・出荷、在庫は横這い。大型港湾製材工場の 5 月の荷動きは、前月より若干落ちて低調の模様。内陸部製材工場の荷動きは依然低調で当用買いが続く。一方、製材品の入荷状況は 4 月の入出荷が予測以上に増加したため、反動で多少減少した。出荷は横這いもしくは減少、在庫は増加傾向。カナダ産地情勢は雪の影響で出材が遅れ、米ツガ丸太が逼迫。今後森林火災発生期に入り、米ツガ製材品は値上がり予測。米マツ KD 製材品は横這いから強気の状態。震災の影響も一段落し、比較的落ち着いた荷動き。

3. 南洋材

サバの天候は回復し、生産は順調になりつつあるが、雨期明けの丸太は古材中心となる恐れ。丸太、製材品の相場は消費国からの値上げ抵抗により、弱含み横這いの展開。サラワクは、サバより早めに天候回復したが、伐区の奥地化、2,3次林中心のため、出材量は増えない状況。丸太相場はインド、中国の大口消費国からの引合い増による高値に嫌気が差しかなり下落。そろそろ天井感が出始めている。しかし、出材が落ちている状況から、供給過剰感はない。PNG・ソロモン材は、悪天候による出材減の中で、中国、インドからの値下げ要請もあり、相場は横這いの状況。丸太の入・出荷、在庫ともに横這い。製材品の入荷も横這い。原木の販売は、合板用・製材用とも変わらず。製材品の販売は、震災復興向けの荷動きを期待。

4. 北洋材

ロシア極東はまもなくアムール出しが開始する。中国沿岸部方面が過剰在庫により、軒並み弱含みで、出材の少ないエゾマツ丸太を除き、カラマツ丸太は180\$/m³前後まで値下がりしたが、より割安な米マツへのシフトが進む。国内合板メーカーからの買いはまだ入っておらず、成約にはもう一段の値下げが必要。シベリア地方は、夏山造材がスタートしているが、現地製材工場及び満州里とも依然原木在庫レベルが低く、高値安定の相場。富山港・富山新港の5月丸太入荷は、14,116 m³(アカマツ 228 m³、エゾマツ 13,888 m³)と先月比47%減。一方、製品も12,298 m³で先月比32%減。荷動きは、丸太は工場製品在庫が増加し低調。製材品も製品価格が伸びず採算悪く低調。在庫は2ヶ月。価格は丸太、製材品とも横這い。国内製材工場は、アカマツ、エゾマツの原木、原板とも不採算。稼働状況は採算合わず生産調整が続く。

5. 合板

合板用丸太価格は、国産材は地域によってバラツキがでており、特に、西で弱含みの展開。北洋材・南洋材ともに、産地では他国向け需要が一服し、調整局面へと雰囲気が変わり始めた。4月の国内の合板生産量は19.6万m³で、うち針葉樹合板は16.8万m³(対前年同月比87%)となり、残存メーカーのフル生産により前月比では21%増加。出荷量は18.2万m³(同91%)と生産量を上回ったことで、在庫は8.4万m³まで減少し、市場での品薄感は拭えない状況。販売価格は、国産南洋材合板メーカーは引続き原料高を背景に価格転嫁を唱えているが、市場での反応は鈍く浸透しない状況。針葉樹合板メーカーは一部品目を除き価格横這いを発表。現状の地合を踏まえ慎重に唱えていく方針。国産南洋材合板の荷動きは、直需関係は好調が継続しているものの、一般ルートは一服状態で買い控え状況。針葉樹合板は残存メーカーのフル生産により増加しているもの

の、市場の不足感は引続き強く、依然手当ては窮屈な状況。輸入合板は、震災後に制約した玉が着々入港し始めており、4月の輸入量は33.7万 m^3 （対前年同月比112%）と若干多めで、国別では中国の増加が顕著。全般に12mm厚品を中心にタイト感は緩和。市場での手当ては当用買いが続き、荷動きは落ち着いてきた。輸入合板は6月入港がピークと思われ、市場では荷余りが懸念。需給バランスにもよるが、暫くは踊り場局面との見方多い。針葉樹合板は被災メーカーの復興時期が不透明なため、不足感は当分続く見通し。

6. 構造用集成材

欧州ラミナの現地からの出荷は安定してきた。日本側の在庫調整で契約が落ち込むと減産に入る動きあり。国内集成材メーカーの今回の契約は少なめ。各国からの引合い強い中で価格は横這い。輸入集成材の6月価格は5.8~5.9万円/ m^3 で決定しているが5,6mは高めの契約。国産集成材の受注は、上棟が若干増加しており6月は期待できる。販売、荷動き状況は、5月は構造材全般に停滞したが6月は上向きと予測。7月はエコポイント打ち切りもあり、若干の駆け込み需要が予想される。数社の大手ハウスメーカーは、住宅資材の入荷が安定したため上棟ストップを解除した。

7. 市売問屋

国産構造材は、全般的に動き悪い、特に、ヒノキ土台、柱は価格弱含みも販売に苦戦。外材は米マツの平角需要が極端に鈍い。造作材は、スギ桁平割は堅調だが他の製品は荷動き悪い。外材では、好調だったスプルース良材は鈍化。買方も手持仕事の減少と梅雨入りで、仕入意欲が乏しく販売に苦慮。震災以来品薄気味で、相場は強基調だったが国産材まで動きがペースダウンしてきており、全般に一服感が色濃い状況。

8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割とも強保合。ヒノキKD柱変わらず。外材は、米ツガKD平割、正角KD変わらず。ロシアアカマツは強保合。WW、RW集成材は梁、柱とも保合。合板は、針葉樹、ラワンともに入荷は一部（長尺、厚物）を除き順調で価格は保合。断熱材の品不足は解消し、発注から1週間で入荷可。プレカット工場は、多少忙しさが出てきたが、町場の仕事は相変わらず不振の状態。新築見積りは少なく、すぐの仕事に繋がらない。震災関係では屋根工事が材料不足と職人不足で着工が遅れ、梅雨入りで懸念される。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)